

設備更新事例 受電設備の 計画的更新の

ススメ!



中部電気保安協会では、お客さまに安心して電気を使い続けていただくために、高圧機器の更新推奨時期を分かりやすく年表でご報告し(右図参照)、計画的な設備更新のご提案をさせていただきます。

電気設備機器年表(例)

受電所名 変電所名	設備分類	用途区分/ バンク名称	製造年月	製造者	型式	定格値	改修 依頼済	2021 以前	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
	構内区分 開閉器	常用	2000年 12月	〇〇〇	□□□-〇〇	7200V/200A	有	●											
	構内区分 開閉器GR	構内 区分用	2000年 12月	〇〇〇	□□□-△△	110V	有	●											
	高圧CV ケーブル	引込用	2000年 12月	△△△	◇◇◇	6600V/38mm ² / 30m	無	○	○	○	○	○	●						
受電設備	遮断器	主遮断用	2000年 12月	□□□	△△△-〇〇	7200V/200A	無	○	○	○	○	○	●						
受電設備	コンデンサ	その他用	2000年 12月	◇◇◇	■ ■ ■ - △ △	6600V/24kVA	無	○	○	○	○	○	●						
受電設備	変圧器	電灯用	2000年 12月	■ ■ ■	〇〇〇-□□	6600V/210V/ 1φ/50kVA	無					○	○	○	○	○	○	○	●
受電設備	変圧器	動力用	2000年 12月	■ ■ ■	〇〇〇-△△	6600V/210V/ 3φ/50kVA	無					○	○	○	○	○	○	○	●

○更新推奨時期 ●更新時期

今回は、当協会のご提案年表を元に、
更新時期を迎えた全ての高圧機器を更新いただいた事例をご紹介します。

今回ご紹介するお客さまの受電設備は、キュービクルと組立式受電設備で構成された設備です。その内、高圧引込ケーブル、高圧開閉器、変圧器、高圧進相コンデンサ等の高圧機器が更新時期を迎えていました。

経年使用した高圧機器は故障のリスクが高まっている状態であり、不具合が発生すると重大な事故(電気火災や波及事故)に繋がるだけでなく、一度に多額の費用負担が発生するリスクがあります。このため、お客さまへは設備更新の重要性をお伝えしながら、低圧設備も含めた設備全体の更新計画案をご提案させていただきました。

お客さまには設備更新の重要性をご理解いただき、設備更新費用の予算を確保した上で、更新時期を迎えた全ての受電設備を、計画に沿って順次更新していただきました。

今回の設備更新により、経年劣化による電気火災や波及事故、不意な停電による操業停止等のリスクを低減することができました。また、落雷や水災による電気設備の復旧費用をサポートする、受電設備保証保険適用の対象となりました。

更新事例	受電設備更新	
更新前 組立式受電設備		
更新後 キュービクル		

[高圧設備] 高圧機器の 更新推奨時期 一覧	① 高圧気中負荷開閉器	15～20年
	② 高圧引込ケーブル	20～25年
	③ 高圧交流負荷開閉器	20～25年
	④ 高圧進相コンデンサ	20～25年
	⑤ 高圧真空遮断器	20～25年
	⑥ 変圧器	25～30年
	⑦ その他高圧機器	25～30年
	⑧ 高圧限流ヒューズ	10年

※各種文献を参考に中部電気保安協会として定めた年数です。



保安担当者からのコメント

設備更新の説明においては、万が一故障した際は長時間停電となり、お客さまの操業に支障をきたす恐れがあることをしっかりご説明し、経年劣化による電気事故の未然防止に努めています。

岡崎支店 西尾営業所 保安課 五斗辰彦